

# 仲間だからこそ

## 知らないふりはできない

～ 関川中いじめに立ち向かおうプロジェクト全校集会 ～

一月二十七日、関川中学校でいじめに立ち向かおうプロジェクト全校集会が行われ、関川中の全校生徒と今春、関川中に入学する関川小六年生児童の計二百二十九人が参加しました。

今回の全校集会は、年四回実施しているいじめに立ち向かおうプロジェクトの集大成



として位置づけられ、これまで各学級で取り組んできたことの発表や、生徒会が中心となって製作した自主映画の上映などが行われました。

開会に先立ち、小野周平生徒会長（三年・下関）があいさつの中で「いじめを止めることは大切。でも一番大切なことは、いじめを起こさない環境づくりだと思えます。この集会でいじめに関する知識を深めましょう」と参加者に呼びかけました。

冬休み期間を利用し、生徒会が中心となって製作した約二十分の映画「許さない！」は、ひとりではなくみんなでいじめを解決しようというメッセージが込められた力作で、傍観者から仲裁者になることの大切さを訴えた作品となりました。

上映後に行われた各学



### 集落をこえたつながりを大切に ～ 南中・宮前・朴坂集落で交流会 ～

女川地区の3集落（南中・宮前・朴坂）では、集落同士のつながりを大切にしようと20年以上にわたって年に一度交流会を行っています。

今年は2月11日に宮前集落センターを会場に行われ、各集落から18人が参加。佐藤忠良副村長から村政について説明を受けたり、各集落区長からそれぞれの取り組みや現状等について報告がなされたりとさまざまな情報交換が行われました。

宮前集落の津野武次区長は「この交流会のメリットはつながりができること。一緒に出来ることがあれば、力を合わせて取り組むことができる。若者も少なく、人口も減ってきている状況の中、こういったつながりは大切。これからも続けていけたらいい」と話していました。

### 自治功労表彰（高齢者表彰） おめでとうございます



#### 高橋喜作さん(大石)

明治45年2月6日生まれ

平成24年2月6日で、満100歳の誕生日を迎えられました。

足腰がとても丈夫な喜作さん。毎晩大好きな発泡酒で晩酌することが楽しみで、喜作さんの元気の源になっています。

表彰おめでとうございました。

このたび、村上市消防署荒川分署長を務める池田良治さんが、第四十回医療功労賞（読売新聞社主催）を受賞し、表彰状と記念品が贈られました。

これは、長年にわたり地域医療や福祉に貢献した医療関係者が対象となるもので、池田さんは救急法の普及に努めたことが評価されました。

一九七四年に消防士となった池田さんは、一九九六年、当時の岩船広域消防署で二人目の救急救命士となりました。へき地や離島を抱える村上市消防署管内において、住民を対象にした救急法の指導や、発見者・同伴者等に対する指導、育成のほか、事業所や学校での講習会など救急法の普及に尽力。

最近では、PA連携（心肺停止患者に対する救急業務において、マンパワー不足が生



## 池田良治さん（下川口） 医療功労賞を受賞

救急救命士では  
県内初の受賞

ずるため、ポンプ隊が同時出勤すること）を提案・実現させるなど、救急体制の整備にも努めてきました。

これまでに約五千件もの現場を経験してきた中で「大栗田地区で発生した急病人を搬送する際、豪雪のため救急車の進行が困難で、ソリを使って搬送したこと」が印象に残っている現場だと話していた池田さん。

後輩の救急救命士には「処置拡大がなされてきている中で、救命士の立場は難しくなってきた。勉強に励み、地道に努力を重ね、スキルアップに励んでほしい」と救急救命士の先駆者としてエールを送りました。

現在、池田さんは第一線から退いてはいるものの「これからも救急関係に携わってきたい」と話していました。

## 雪原に現れた 無数の「雪ほたる」

2月18日、安角ふれあい自然の家を会場に「七ヶ谷雪ほたるまつり」（タランペクラブ主催：加藤克徳代表）が行われ、会場に飾られた約1,300個もの雪灯ろうが来場者を魅了しました。

会場では杵差岳の麓に形成されている七ヶ谷地区の集落を、雪灯ろうを使って見事に表現し、暗闇の中に浮かび上がる無数の「雪ほたる」の姿がいつまでも幻想的に光輝いていました。

今回のイベントに初めて参加した国際ボランティア学生協会IVUSAの及川滉平さんは「想像していたよりもすごかった。地元の方などが協力して1日で準備をするところに地域の団結感を感じました。自分も少しは力になれたかと思うと嬉しいです。本当にきれいでした」と雪ほたるの姿に感動していました。



おいし・どもんこまつり&七ヶ谷雪ほたるまつり



## 巨大どもんこに 子どもたちも大興奮！

今年で7回目を迎えた「おいし・どもんこ祭り」（大石・山と川に親しむ会主催：高橋八男会長）が2月11日、大石ダム湖畔県民休養地を会場に行われ、家族連れなどにぎわいました。

会場周辺は、約250センチの雪が積もり、村内外から訪れた皆さんもあまりの雪の多さにびっくりした様子。会場では、どもんこ作りや和かんじき、竹スキー、スノーモービルによるソリ遊びなどが行われたほか、巨大どもんこの中では、昔懐かしい煎餅型を使った煎餅焼き体験コーナーが設けられ、来場者を喜ばせていました。

胎内市から家族で訪れた本間李那さんは「大きなかまくらを見ることができて楽しかった。自分の隠れ場所に、こんなおおきなかまくらがあったら嬉しい」と巨大どもんこの大きさに興奮していました。